

年頭のごあいさつ

社団法人 北海道林産技術普及協会
会長 竹内久彌



あけましておめでとうございます。平成12年の新春を会員の皆様と一緒に喜び申し上げます。

いよいよ今世紀最後の年、誠に意義深い年であります2000年を迎えました。今年が会員皆様にとって幸多い年でありますよう心から願いたします。

日本経済は全体として緩やかな改善基調にあるといわれていますが、私どもの業界を取り巻く環境は大変厳しく、素直に容認できない思いがいたします。

このような状況の中で、日夜ご奮闘されている会員の皆様に心から敬意を表しますとともに、当協会にお寄せいただきましたご指導、ご支援に感謝申し上げます。

また、昨年は林産試験場より「木とくらしの情報館」の管理と展示品募集業務を受託いたしました。当協会の運営にとりまして、大変ありがたいことと感謝申し上げます。

私どもを取り巻く経済環境は、今年も大変厳しいものと思っています。かつ、建築基準法が改正され「一定の機能を満たせば、どのような材料、設備、構法でもよい」という性能規定が導入されました。また、義務づけとしての「住宅10年保証」、義務づけではなく任意としての「住宅性能表示」などを骨子とする「住宅品質確保促進法」(品確法)が制定され、いずれも今春から施行されようとしています。住宅用資材にも厳しい品質要求が予想されます。環境や健康、耐久性を考慮し、しかも、外材に対抗し得る商品の開発が必須になります。

このようなとき、北海道には今年創立50周年を迎える林産試験場という立派な機関がございます。私どもの強い味方になっていただけるようご奮闘を期待申し上げますとともに、私ども会員も試験場とともに新しい世紀に向けて、心新に努力しようではありませんか。

さて、21世紀以降の人類最大の課題は「持続可能な社会」の構築であり、それに向けた倫理と技術が重視されなければならないといわれます。「持続可能な社会」とは、資源循環型の社会であり、環境保全に優れた社会といわれます。環境負荷の少ない持続的な社会の構築には、木材の積極的利用が優れた選択肢の一つであるという認識が高まっています。木材の利用は、炭素の貯留に役立ち、木材は製品化へのエネルギー消費量が少なく、バイオエネルギーとして化石エネルギーの代替効果が高く、安全で循環可能な資源として、持続可能な社会の構築に向けて高く評価されるようになってきました。つまり、持続可能な森林管理の中で、木材生産を図り、木材を長く利用していくこと、木材をバイオエネルギーとして使用していくことが環境保全的に好ましいということです。21世紀は木材の時代です。

新しい世紀の主役を引立てるためにも頑張りましょう。